



立正佼成会ニューヨーク教会

320 East 39th Street, New York, NY 10016 TEL: (212) 867-5677

E-mail address: koseiny@aol.com, Website : <http://rk-ny.org>



ニュースレター2022年 8月号

皆様こんにちは、いかがお過ごしでしょうか。

8月に入り本年も、はや後半に向かいます。

COVID 19 も世界的なパンデミックとなり3年目を過ぎていますが、なかなか衰えを見せず最近では新種のオミクロン株が現れ感染者数も再び増加しています。日本でもようやく収束に近づくとされていた状態が一転し、第7波として再び拡大傾向に戻りつつあります。

ウクライナ状況も然りロシアとの攻防が続き、イギリスではジョンソン首相が解任され、スリランカでは政治・経済の行き詰まりから大統領も疾走し、日本では安倍元首相が選挙演説中に銃で暗殺されるなど、まさしく諸行無常の世界が展開しています。

私は6月から7月にかけて一時帰国をして本部での打ち合わせやいろいろな方との出会いで忙しく、また充実した日々を過ごしてまいりました。そんな日々の中朝夕のご供養中にふと気付くことがあり今月はそのことを通じて感じたことをお話したくします。

それはご供養の始めに何故「道場観」から始まるのかなと言う素朴な疑問でした。普通仏教徒として唱える言葉は「三帰依文」からなのですが現在私どもが読誦する経典では「道場観」から始まりその後「三帰依文」と続きます。よく調べてみますと本会での過去の経典は全て「三帰依文」から始まっており、現在使用されている経典ではそれが改訂され「道場観」が最初に出てまいります。そこに改訂にあたり込められた会長先生の深い思いを、今になって気付かせていただきました。

会員綱領にも「在家仏教の精神に立脚して」とありますように、それぞれの生活の場の中でどう教えを生かすかが大切で、お釈迦様は在家、出家を問わず教えが人々の人生や生活に生かされてこそ意味があり、教えだけを学び理解するのではなく実行を通じて教えの意味を身で読んでこそ真の悟りにつながるのだと述べられています。

「法華経」が説かれた経緯からしましてもお釈迦様の滅後お説きになられたお言葉を弟子たちが経典として残し後世に伝えられてきました。しかしながら次第にお釈迦様の悟られたお心からややはずれ権威主義的になったり、理解しがたい難しい教えになってしまいました。その流れにもう一度お釈迦様の精神（お心）に帰ろうという強い願いから「法華経」は説かれました。

「道場観」はその「法華経」の「如来神力品 第21」の中の一節です。

すなわち、-----法華経の教えを読誦したり、修行したり、実践したりするところはどこでも道場だ-----ということで、日常生活のあらゆる場所がすなわち道場で、お釈迦様が悟りを開かれた場所と

同じ意味を持つ尊厳な場所という自覚が大切で、信仰者としての心構えを教えてくださいたいです。

お釈迦様の説かれたお言葉に有名な一節があります。

「過去を追うな。

未来を願うな。

過去はすでに捨てられた。

そして未来はまだやって来ない。

だから現在のことがらを、

それがあるところにおいて観察し、

揺るぐことなく動ずることなく、

よく見きわめて実践せよ。

ただきょうなすべきことを熱心になせ。

誰があすの死のあることを知らん」

ですから、「今、ここ」を大切にする「是所道場」の精神を大切に、読経の始めに唱える意味があり、混迷を深める現代社会の中であって、真の人間の生きるあり方を多くの方に示せるのではないのでしょうか。

今月はさらに暑さの厳しい毎日になろうかと思えます。どうぞ体調を崩されることなく健康に留意され元気に、感謝の毎日をお過ごしください。



合掌

ニューヨーク教会長
畠山友利